

# Book Review

## フローチャートでわかる 歯科医院における 50 の痛み 診断手順と治療法

福田謙一 著



Reviewer

武田孝之 Takayuki Takeda  
(東京都・武田歯科医院)

A4 判変、168 頁  
オールカラー  
定価 (本体 8,500 円+税)  
医歯薬出版刊



患者の主訴のなかで最も頻度が高く、解消要求度の高いものは、「痛みをとってほしい」というものである。

歯周病、齲蝕、過大な力などが原因で、歯および周囲組織が破壊された状態、いわゆる器質的な問題が原因となっている場合には、歯科医学的な診断、治療を適切に行うことによって痛みを解消しやすい。しかし、最近では口腔諸組織に器質的に問題がないにもかかわらず、痛みや不安を強く訴える患者さんが激増している。

このような患者に、「痛み」の原因について十分な知識がないままに、闇雲に歯科治療のみによって解決しようとすると、かえって患者を苦しめてしまうことになりかねない。

一般的な歯の疾患の場合、診断があやふやであっても行う治療行為には大

きな差がないために、ややもすると歯科医師は診断をないがしろにしがちである。また、自分の技術をもってすれば患者の主訴を改善できると錯覚している場合も少なくないと思われる。しかし、従来の一般的な歯科治療だけでは治せない患者がいることをまず認識しなければならない。さらに、複雑な社会構造、ストレスが大きくかかる環境のなかで患者はさまざまな問題を抱えて歯科医院に来院する昨今、私たち歯科医療従事者も「痛み」のメカニズムについて知識を整理し、そして、適切な対応ができるようになっていなければならない。その点において、本書は貴重な一冊である。

まず、痛みのメカニズムをわかりやすく説明し、さらに、歯痛、抜髄後痛、抜歯後痛、顔面痛、舌痛、日常臨床で

患者がよく訴える痛みをカテゴリーに分けてあり、頻度の高い具体例を提示し、原因と治療法、対応法を示されている。さらに、患者が歯科医師の医療行為が原因と考えやすい治療行為後のしびれと痛みにも言及されている。

あらかじめ本書を熟読し、理解したうえで患者の訴えを聞くことが最も望ましいが、目の前の患者の症状を後半の具体例に照らし合わせてみることも効果的と考える。

著者の福田謙一先生には原因が掴みにくく、対応が難しい患者をこれまで多く治療していただいていた。本書の内容を少しでも理解し、自分で対応できること、専門医に診てもらうことを明確にしていきたいと個人的にも思っている。

臨床医に不可欠な一冊である。